



会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表執行役社長
 山本 良一
 お問合せ先 経営戦略統括部
 IR・グループ広報推進部
 TEL 03-6895-0178

2018年4月度 J.フロント リテイリング 連結売上収益報告 (IFRS)

1. セグメント別売上収益 (売上高) (対前年増減率: %)

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	4月度	3~4月度累計	4月度	3~4月度累計
百貨店事業	6.0 (6.4)	5.7 (6.0)	4.6 (5.1)	4.2 (4.7)
パルコ事業	▲ 12.7	▲ 7.0	▲ 8.7	▲ 4.2
不動産事業	90.0	131.3	78.6	121.5
クレジット金融事業	3.0	2.8	4.3	3.9
その他	▲ 27.7	▲ 28.5	▲ 24.1	▲ 25.0
連結合計	▲ 5.3	▲ 4.3	▲ 1.9	▲ 1.0

※1 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用いたしております。

※2 総額売上高

IFRS売上収益のうち百貨店事業と「その他(大丸興業)」の消化仕入取引を総額に、パルコ事業の純額取引をテナント取扱高(総額ベース)に置き換えて算出しております(なおパルコ事業では2017年度から日本基準の売上高を純額ベースで算出する方法に変更しております)。

※3 大丸浦和パルコ店は7月31日の営業終了をもって閉店いたしました。百貨店事業の()内は、大丸浦和パルコ店を除く既存店ベースの数値。

※4 PARCO_ya(上野)は2017年11月4日に開店いたしました。大津PARCOは2017年8月31日の営業終了をもって閉店いたしました。

※5 本年3月から百貨店事業の大丸神戸店周辺店舗のテナントを順次賃貸借契約に変更し、売上を不動産事業に移管しております。参考数値として、神戸店から不動産事業への移管テナントの前年実績を除いた4月度の百貨店事業の売上収益(IFRS)と総額売上高は、それぞれ対前年6.4%増、同5.3%増。同じく神戸店から不動産事業への移管テナントの前年実績を除いた3~4月度累計の百貨店事業の売上収益(IFRS)と総額売上高は、それぞれ同6.0%増、同4.7%増。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- ・ 気温が平年より高く推移したことにより、ブラウス、ワンピースなどが好調に推移し、婦人の帽子、パラソルも活発に動いたほか、化粧品、ラグジュアリーブランド、美術宝飾品も大きく売上を伸ばした。なお百貨店事業合計は13ヶ月連続で前年実績を上回った。また大丸松坂屋百貨店の免税売上高は、対前年50.0%増(客数同43.0%増、客単価同4.9%増)となった。

2) パルコ事業

- ・ 月後半の気温の上昇により、今月スタートしたビアガーデンが好調にスタートした一方、夏物衣料品の需要が先行したことによる客単価の減少がみられるなど衣料品の売上が振るわなかった。また、前年のエンタテインメント事業の劇場売上の好調やパルコスペースシステムズにおける大型内装電気工事売上の反動影響などがあった。

3) 不動産事業・クレジット金融事業・その他

- ・ 不動産事業は、GINZA SIX(ギンザ シックス)、上野フロンティアタワーの家賃収入が加わり大幅増となった。
- ・ クレジット金融事業のJFRカードは、割賦販売手数料、加盟店手数料などが増加した。
- ・ その他では、人材派遣業のディンプルが引き続き好調であったものの、建装事業のJ.フロント建装における前年大型物件売上の反動減と株式譲渡した連結子会社の売上減が影響した。

お問合せ先 J.フロント リテイリング株式会社 IR・グループ広報推進部

TEL 03-6895-0178
 FAX 03-6674-7565

2018年4月度 百貨店事業 営業報告(日本基準)

1. 売上高および入店客数 (対前年増減率：%)

	4月度		3～4月度累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	17.2	18.8	16.4	18.4
大丸 梅田店	3.9	1.2	4.6	0.7
大丸 東京店	3.9	▲3.8	4.4	▲2.0
大丸 京都店	6.9	6.1	5.1	2.4
大丸 山科店	▲2.8	▲2.1	▲1.7	▲1.7
大丸 神戸店	▲2.0	0.3	0.3	▲1.6
大丸 須磨店	▲2.9	▲2.1	▲3.0	▲3.2
大丸 芦屋店	▲1.0	▲2.7	0.6	▲1.9
大丸 札幌店	8.1	1.5	5.6	0.1
松坂屋 名古屋店	6.9	4.0	4.1	0.2
松坂屋 上野店	2.2	23.6	4.9	34.4
松坂屋 静岡店	0.1	7.6	0.4	5.5
松坂屋 高槻店	0.8	▲1.4	▲0.7	▲1.5
松坂屋 豊田店	▲5.9	▲4.6	▲7.1	▲2.8
大丸松坂屋百貨店合計	5.4	2.9	5.0	2.5
博多大丸	5.0	2.4	3.0	0.3
下関大丸	▲5.8	12.1	0.6	13.7
高知大丸	▲2.1	▲0.7	0.1	▲0.1
百貨店事業合計	5.1	3.0	4.7	2.6

※1 合計の前年は、大丸浦和パルコ店(2017年7月31日営業終了)を除く既存店ベース。

前年に大丸浦和パルコ店を含めた4月度の増減率は、大丸松坂屋百貨店合計 対前年4.9%増、百貨店事業合計 同4.6%増。

同じく前年に大丸浦和パルコ店を含めた3～4月度累計は、大丸松坂屋百貨店合計 対前年4.5%増、百貨店事業合計 同4.2%増。

※2 参考数値として、大丸神戸店から不動産事業への移管テナントの前年実績を除いた4月度の神戸店の売上は、対前年4.2%増、大丸松坂屋百貨店合計、百貨店事業合計の売上は、それぞれ同6.2%増、5.8%増。

同じく大丸神戸店から不動産事業への移管テナントの前年実績を除いた3～4月度累計の神戸店の売上は、対前年5.0%増、大丸松坂屋百貨店合計、百貨店事業合計の売上は、それぞれ同5.6%増、5.2%増。

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高 (対前年増減率：%)

	4月度	3～4月度累計
紳士服・洋品	4.3	4.7
婦人服・洋品	2.1	2.9
子供服・洋品	▲1.0	▲0.0
その他の衣料品	4.3	▲1.5
衣料品計	2.3	2.8
身回品	0.8	▲0.7
化粧品	34.5	37.0
美術・宝飾・貴金属	26.7	18.3
その他雑貨	▲5.2	▲6.4
雑貨計	28.2	26.2
家具	▲8.1	▲7.5
家電	▲9.9	14.1
その他の家庭用品	▲1.7	▲1.0
家庭用品計	▲3.3	▲2.1
生鮮	▲3.3	▲0.0
菓子	▲0.4	▲0.1
惣菜	2.1	0.1
その他食料品	▲3.6	▲2.3
食料品計	▲0.7	▲0.4
食堂・喫茶	▲0.5	▲0.5
サービス	5.4	▲2.7
その他	1.5	▲5.6
合計	5.4	5.0

3. 売上高概況

婦人服・洋品は、ラグジュアリーブランドが好調を持続した。紳士服・洋品は、ポロシャツの好調に加え、ジャケットとブルゾンが動いた。身回品は、アクセサリ、ハンドバッグが堅調であった。雑貨は、化粧品が訪日外国人客・国内客ともに好調を持続したほか、高級時計が引き続き伸びた。家庭用品は、家具において前年大型売上の反動減があった。食品は、惣菜が静岡店、京都店の大型催事によって伸びたものの、生鮮食品、その他食品では名古屋店、京都店の大型催事縮小の影響があった。